

セイキよりご挨拶申し上げます

拝啓 初夏の候、貴社ますますご繁栄のことと心からお喜び申し上げます。

世界的に流行した新型コロナウイルスの影響により、お取引先の皆様のもとになかなかご挨拶に伺えず、心苦しく思っております。せめて書面でご挨拶を申し上げますようと、この「通信」を作成いたしました。主に弊社の施設や社員を紹介するものです。早く事態が収束し、皆様の元に伺える日がくることを祈っております。

セイキ製作所代表取締役社長

稲山 正人 敬具



セイキ製作所通信

Vol.1

セイキ製作所

〒194-0023
東京都町田市旭
町3-20番地6号



042-722-1855

SEIKI

セイキの技術紹介 ①

アナログ技術の活用「セーパー」

いま世の中はIoTやAIなどの生産技術の革新が進んでいます。当社もおかげさまでその革新と繁忙の影響を受け、日夜マシンキー作りに励んでいます。

一方でマシンキーは、世の中の革新とはかけ離れたアナログ技術で作られているところがあります。例えばセーパーという機械です。「セーパー」という名前を殆どの方は聞いたこともないし見たこともないと思います。構造はきわめて単純でテーブルの上を刃物が往復運動するだけの機械です。単純ゆえに故障も殆どしません。しかし、刃物を整形する技術と段取り操作に熟練度を必要とするため、現在ではNC制御のフライス盤にその役割を奪われております。日本にセーパーを作っている会社は最早存在せず、なんと愛知県の明治村にこのセーパーが展示されています。

当社はこの化石化したセーパーを駆使して、丸棒から角形状への加工、キーの端面加工、

面取り加工を行っています。セーパーを使って素材加工をするとワークのソリも発生しません。切削条件によっては難切削材の加工もできます。セーパーは当社になくはない機械なのです。

もちろんマシンキー作りはこのようなアナログ技術だけで作られるものはありません。特に短納期で単品加工するにはNC制御による段取りの省略が必要ですし、一日何百点もの納期管理をするには情報システムも必要です。こうした先端技術とともに、職人の腕が試されるアナログ技術も活躍し続けております。



定尺キー(キー材) 販売開始

自由な長さで切り出しが可能なキー材「定尺キー」の販売を開始しました。

【セイキの定尺キーの特徴】

- ◎一本々三本の個包装から購入可能
- ◎JIS規格を保証
- ◎無駄なく切り出せる長さ
 - ・幅十二mmまでは三〇〇mm
 - ・幅十四mm以上は三五〇mm

【使用例】

- ◎JIS規格にない寸法の平行キーを作成する時の母材として使用
- ◎平行キーの試作・検証
- ◎緊急時の対応として、キー材のストックで急遽平行キーを内製
- ◎治具製作のため、精度の高いキー材を使用

詳しくは弊社ホームページをご覧ください。

<http://www.seiki-ss.co.jp/>



セイキ社員のご紹介①

山本 義弘 (入社十五年目)

特殊品の加工を行うマシニングセンターに配属されて、七年目くらいになります。主な仕事は図面通りの加工ができるよう機械にプログラミングを行うことです。プログラミングは数字とアルファベットを組み合わせたもので、組合せは百種類くらいにはなると思います。機械のメーカーによってプログラムが微妙に違ったりしますが、それも含めて組合せは全部頭に入っています。難しい加工のものはプログラミングだけで一時間かかるものもあります。プログラミングを組んだ後はいきなり加工に入るのではなく、品物なしの空運転をして機械の動きを確かめるようにしています。品物がなくても、機械の動きを見れば大体どのような加工が行われるか把握できるので、そこで自分の意図通りに機械が動くか確認しています。

機械を思い通りに動かせるようになったのは三年目くらいからです。最初は品物の入れ替えだけで機械の操作もやらせてもらえなかったのですが、先輩の技術を見て盗みました。さらに難しい加工の



技術を取得するために、今後自分の腕を磨いていきたいと思っています。

セイキ社員のご紹介②

山崎 博之 (入社二十七年目)

理想とするのは、正確さ・スピードで、機械にひけをとらないようにすること。まるで機械の一部のような働きをするのがすごい職人だと、若い頃から思っています。

今はエンドレスという、やすりで製品を仕上げる部署にいます。先ほどは「機械の一部」と言いましたが、この部署では逆に手作業がメインなので、自分の目や手触りが頼りです。手の感覚が大事なので、手袋などは使わず素手で作業しています。また、場合によっては機械よりも、自分の感覚の方を優先することもあります。例えば柔らかい素材だとメモリ通りに削っても少し素材の押し戻しがあつて、指定の寸法通りにならないので、コンマいくつの調整は、メモリの指定を解除して、自分の感覚を頼りにやらざるを得ないんです。少しでも手元が狂ったりすると、それまでの工程も全て無駄になってしまうので緊張感があります。お客様に「やっぱりセイキさんのキー材はいいよね」と言ってもらいたいので、完成度を重視したいんですが、私の理想は「機械の一部」になることなのでスピードと両立したいところですね。

